

ヤングケアラー

ヤングケアラーとは、家族のケアを行う18歳未満の子どものこと。国の調査によると、中学2年生の17人に1人が「世話をしている家族がいる」と回答している(2021年4月)。ヤングケアラーは、見ようとしないと見えない存在といわれる。だからこそ社会の認識を広めて、ヤングケアラーが安心して話せる場(学校、社会、地域)をつくる必要がある。本号では、ヤングケアラーの実態、行政、学校での支援のとりくみのほか、当事者の声やセルフヘルプ・グループを紹介する。

女も男も No.138—2021年 秋・冬号
B5判/96頁/定価1,948円(本体1,771円+税10%)



主な内容

Part 1 見ようとしないと見えない存在ヤングケアラー

ヤングケアラーの実態と必要な支援

堀越 栄子(日本ケアラー連盟代表理事)

ヤングケアラーをとりまく諸課題

斎藤 真緒(立命館大学産業社会学部教授)

全国初の「ケアラー支援条例」制定とその後のとりくみ

穴戸 幸典(埼玉県福祉部地域包括ケア課)

《探る・深める》

若者ケアラーに求められているのは就職・転職支援

宮崎 成悟(ヤングケアラー協会代表理事)

Part 2 学校と福祉・地域をつなぐ

ヤングケアラー支援のため、教育現場から福祉との連携を図る

早野 裕之(埼玉県教育局市町村支援部人権教育課)

人とつながることの心地よさを知ることでSOSを出せるようになる

黒光 さおり(スクールソーシャルワーカー)

長年のインクルーシブ教育実践を背景にヤングケアラー支援にとりくむ

鬼塚 健自(湘南教職員組合執行委員長)

地域連携型生徒支援でヤングケアラーの「家族全体への支援」につなぐ

竹村 雅夫(藤沢市議会議員)

うれしかったのは「ほめられたこと」「気にかけてくれたこと」

——精神疾患の親をもつ子どもの実態調査(成人後の調査)からみえてくるもの

蔭山 正子(大阪大学高等共創研究院教授)

Part 3 当事者の声とセルフヘルプ・グループ

しんどいのは自分一人じゃない 葛藤する気持ちを共有できた

——ふうせんの会

吉野 祐樹(仮名)・喜多 正輝・高岡 里衣(ふうせんの会運営メンバー)

当時の自分の気持ちを振り返り、自分を知っていく

——精神疾患の親をもつ子どもの会「こどもびあ」

坂本 拓(こどもびあ代表)

自分らしくいられる居場所であるために

——きょうだい会SHAMS

滝島 真優(きょうだい会SHAMS代表・成蹊大学客員研究員)

子ども世代の思いが分かち合える場が欲しい

——若年性認知症の親と向き合う子ども世代のつどい「まりねっこ」

田中 悠美子(立教大学コミュニティ福祉学部助教)

頼れる大人を見つける冒険

——絵本『生きる冒険地図』に込めたもの

細尾 ちあき(プレスアルハ)

注文FAX 03-3288-5577

発行 労働教育センター TEL 03-3288-3322 FAX 03-3288-5577
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-2-34 千代田三信ビル5F <http://www.rks.co.jp>

■取引取次：日販・トーハン・楽天BN・中央社・日教販

■返品は無期限で承ります【返品了解：高橋】

注文書	貴店番線印	書名	ご発注日
		女も男も No.138 ヤングケアラー	年 月 日
		定価：1,948円(本体1,771円+税10%) ISBN978-4-8450-0897-1	ご担当者名
		冊	様